

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和7年度 飯田市社会教育委員会議 第2回定例会
開催日時	令和8年3月10日(火)午後6時30分～午後8時32分
開催場所	飯田市役所3階C311会議室
出席委員氏名(敬称略)	伊藤緑、今村智子、今村光利、熊谷弘、後藤正幸、 小西盛登、竹内稔、長谷部智子、三浦宏子、森本典子
出席事務局職員	熊谷教育長、秦野教育次長、瀧本副参事中央図書館長、後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長、下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長、小林公民館副館長、筒井文化会館長兼新文化会館整備室長、榎村美術博物館副館長、牧内歴史研究所副所長、本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長、片桐教育支援指導主事
会議の概要	以下のとおり

1 開 会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

皆さんこんばんは。ただ今より令和7年度社会教育委員会議 第2回定例会を開会いたします。

2 あいさつ

(熊谷教育長)

皆様こんばんは。お忙しい中、また夜の時間にお集まりいただきありがとうございます。だいぶ春めいてきたかと思うと、ここ数日は寒かったり、まさに三寒四温で一步一步春が近づいている中、梅が満開に咲いている、そんな良い時期にもなってきたかと感じておるところでございます。長野県は昔から教育県と言われておりますが、その理由は、例えば教員の給料がかつては高かったとか、教育にお金をかけるということが多かったとか、そういうことでよく言われていて、今のように学力が高かったからということよりも、むしろ教育環境の充実という部分で言われていたという歴史があるわけです。つい先日、長野県には県民新聞というのがありまして、これは長野県の教育委員会が出しているデータを元に分析をしてその結果を知らしめている新聞なのですが、一番最新のものを見たところ、長野県は県民1人当たりの社会教育費が全国で13番目に高い、平均よりも高いということです。要するに、社会教育にお金をかけてますよという分析をしていて、特に公民館は全国平均の2.03倍、金額で言うと県民一人当たり3,533円。公民館の設置の数も全国1位。これも公民館が飯田市だけではなく、長野県全体の大きな特徴とも言えるところですよ。さらに、全国1位の設置率は博物館もそうできて、文化財保護なんかは全国平均の4.49倍お金をかけているという、長野県全体の分析をしていただいてありました。それから社会体育施設の数も全国3位というように、長野県全体から見ると非常に社会教育に力を入れているという部分が結果として出ているという記事を読ませていただいて、確かにそうだなと。ただ唯一弱いのは、義務教育はお金をかけて平均より上なのですが、高校の全日制のお金が少し少ないという記事でした。そんな記事を読ませていただいて、やはり飯田

市も今日ご審議、ご意見をいただきますが、社会教育にかなりのお金をかけているかと思っ
ていて、そこでございます。そうした中で、どういう風に使っていくのが一番いいのかとい
うことがとても大事
なところで、今日はそれぞれの令和8年度の取組について、社会教育関係の各課の発表を聞
いて、ご意見を賜り、また参考にさせていただければと思っております。もう1点は、今議
会中でありまして、一般質問が先週の木曜、金曜日とございました。ご質問いただいたの
は、学園構想のことと部活動の「地域展開」のございます。特に部活動の地域展開は、お
二人の市議会議員さんからお尋ねをいただきお答えをしている中で、やはり地域展開に
向けての不安の声が少しずつ現実のものになってきています。その不安の元はどうか
よく見えないとか、わからないとか、そういう課題の部分が保護者の皆さんの中にも
意識として出てきているのかと感じているところでございます。我々としても丁寧
にしっかりと説明をして、一番大事なことは子どもたちにとって一番いいのは何か
ということを中心に考えていきたいとも思っています。さらに図書館の方から「読書調
査」というのがありまして、毎年私も気にしているわけですが、今私が一番気になっ
ているのは、1ヶ月間1冊も本を読まない子どもが中学校で少し増えてきているとい
う状況が結果として出ています。1ヶ月何も読まないということは、たくさん読むに
越したことはないのかもしれませんが、全く読まないというのはいかかなものなの
か。それはもしかしてスマホ等の影響があるのかどうなのか。ただ、長野県のスマ
ホの中学生・小学生の所持率は全国平均よりかなり低いのです。そういう中で読ま
ない子どもたちがいるところが少し気になっておるところでございます。いずれに
しましても、主にこれからの来年度の取り組みについて貴重なご意見を賜ればあり
がたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1)学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けた推進計画の一部改訂について
(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

資料1「学校部活動の地域クラブ活動への展開に向けた推進計画の一部改定について」とい
う資料をご覧ください。表紙の1枚目の資料を使いましてご説明をさせていただきます。
まずこの計画でございますが、昨年度計画を策定させていただき、まもなく1年が経つ
ところでございますが、今回1年で計画の改定をさせていただくということになりま
す。その背景でございますが、左の上の方に書かせていただいておりますが、国の
方がいわゆる地域移行から「地域展開」ということで、方針を変更して新たに令
和8年度から令和13年度までのこの6年間を「改革実行期間」と定めたという
ことでございます。このことが非常に大きな要因となっております。また、左の
下になりますが、現場の課題への対応ということで、休日のみを地域クラブに
移行するとなった場合、平日の学校部活動がそのままの状況になりますので、
二重構造が考えられるということでございます。また指導者が異なること
によって指導方針の統一が難しく、生徒の皆さんへの混乱を招くということの
ほか、教員と地域の指導者間での運営の煩雑化が生じることが懸念される
ということから、今回この計画の改定をさせていただくというものでござ
います。改定の中身でございますが、現在地域移行という言葉を使っ
ておりますので、まずは名称の変更ということで、国の整理に合わせまして
移行から「地域展開」という言葉に変えさせていただいております。2点目
でございますが、改定案のところにもございますとおり、休日の移行につ
いては目標時期は令和8年度末までということで変わりませんが、平日の
移行の目標につきまして、現計画では可能などころから始めていくとい
う表記をしていたのを、令和9年度末で地域展開を完了すると、明確な
目標を設定させていただいているところでございます。また、これ

と合わせまして、市の「公認地域クラブ」制度の強化ということで、活動時間を遵守したり、市の関与と責任の明確化、それから各地域クラブがきちんと保険に加入していただくなど、そういった点の明確化を図っていくということ。併せまして、生徒の皆さんの多様なニーズに応じた選択肢の確保ということで、とにかく競技力を向上させていきたいということもさんもいれば、ゆったりと体験程度で楽しみたいという生徒さんもいらっしゃいますので、できるだけ多様なニーズに対応していくように、そういった機会を確保していきたいということを計画の中で定めさせていただきたいというものでございます。

(2)令和7年度 飯田市児童・生徒読書調査結果報告について

(瀧本副参事中央図書館長)

「令和7年度 飯田市児童・生徒読書調査結果報告書」の報告をさせていただきます。昨年度に引き続きまして、飯田市の小学校3年生から6年生までと中学生を対象に「読書調査」を実施しました。小学生・中学生ともおよそ8割の児童生徒の回答をいただきました。本日は各項目の細かなご説明はできませんが、後でまたじっくりとご覧いただければと思います。結果について主な点のみお伝えいたします。質問2では、読書が好き、どちらかという好きということも小学生の約8割、中学生の約7割おりました。次の質問3、面白い、感動した本、夢中になった本と出会えた小学生は8割、中学生は7割おりました。昨年度の小学校3年生から今年度の4年生はこの感動した本と出会えた本の率が上がったのですが、他の学年はどの学年も昨年度より下がっている状況になっております。質問5からは読書習慣について尋ねています。家庭などで自発的に「週に30分以上」読書をしている児童生徒は、小学生・中学生ともおよそ4割でした。学校の授業や一斉読書以外で本を読まないということも小学生では16.1%、大体6人に1人、中学生では24.3%、4人に1人いるという結果となりました。質問6を見ますと、学校の授業や読書の時間などを含めると、本を読まない「不読率」の割合が低くなることから、自分では読まなくても学校の取り組みによって読書に親しんでいる児童生徒がいるということがわかります。また、「よむリス」といった学年別のおすすめ本リストの配布や、「コロポン」などの取り組みも引き続き行っていきたいと思っております。質問7では本を読まない理由を聞いておりますが、忙しいとか他にしたいことがある、テレビやネットの方が面白いという回答も多かったのですが、読みたい本がないという回答も少なくありませんでした。特に高学年ではそのような傾向が強くなっております。読みたい本が湧くような働きかけをどのように行っていくのか、学校司書の皆さんとも一緒に検討して引き続き取り組んでいきたいと思っております。簡単ですがご報告は以上です。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

それでは報告事項(1)と(2)につきまして、皆様の方からご質問や感想、意見交換の時間を取らせていただきます。

(後藤座長)

学校の部活動について、国が方向を転換した時のことを思い出しているのですが、「移行」から「展開」という風に言葉が変わって、単なる言葉だけが変わったわけではなくて実は中身があるのだと思うのですが、最初移行と聞いた時は、多くの方々が学校の部活動が地域へ移行していくのだと

いうイメージで捉えた人たちが結構多かったと思うのですが、今度「展開」ということになると、そうではなくなるなという感じも少ししていたので、この言葉のことについては現場で特にあまり問題にはなっていないのかどうか。その辺りを少し聞きたいなと思いました。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

特にまだこの計画の改定自体の説明が現場レベルにそこまで落ちていないため、そういった声は聞いてはおりませんけれども、この地域移行ということが言われた時に多くの方の誤解があったのは、地域と言うと飯田の場合はまちづくり委員会がやらなきゃいけないという意識が非常に強くて、まちづくり委員会として何かやることあるのか、あるのならもっとちゃんと事前に説明をしろといったお話は結構あったのですが、徐々にその趣旨や、私どもが願う「地域展開」ですよね。いわゆるこどもたちや、そこで学んだこどもたちがまた次の世代を育てるような機会を作っていくという場に持っていきたいという話がだんだん伝わり出すと、やはりこの「地域展開」という言葉でしっくりくるという印象は受けております。

(後藤座長)

現場の状況がどんな風か教えてもらえるといいなと思ったのですが、今移行期なのでそういうこともあると思うのですが、今こんなことも起きているみたいですね。学校の部活のある種目ですが、もうすでに「公認地域クラブ」があるそうです。学校の部活動には入っていないけれどその地域クラブでやっているという子がいるようです。一方、部活をやっている子はそのまま地域クラブでもやっている。その2種類があるということを知って、そういうことも起きてきているのだなと感じました。つまり「展開」ということの捉え方が、その事例を聞いた時にどういうことなのか、中体連の関係の問題もあるのかなと色々と考えてしまいました。そんなことがあるということも頭にあったので質問させてもらいました。

図書館の関係で、ふっと目に留まったのが、2ページの嫌いというものです。本が嫌いってどういうことかよくわからなかったのですが、この数字を見せてもらった時、面白いなと思ったのが、小学校はずっと嫌が増えていくじゃないですか。そのパーセンテージが中学に行くとだんだんと減っていくというのが面白いなと思ってこの数字を見ました。何か言えることがあるのかと。

(瀧本副参事中央図書館長)

今のご感想に関連して、全く読まないこどもの理由というのを先ほども少し説明しましたが、小学生は学年が上がるにつれて忙しくなったり、他にしたいことが増えたり、テレビやネットの方が面白いという割合が高くなっていきます。中学生になると小学生ほど急にはならないという傾向は見えています。

(今村智子委員)

先日朝日新聞に、東北大学の読み聞かせがこどもの発達にどう影響していくかという研究結果が出ておりました。興味があったのでホームページを開いて調査結果を見させていただきました。3歳までのこどもたちの調査結果ではあったのですが、このままこどもがもっと大きく18歳までを予定していたのを、40歳くらいまで追跡調査していきたいということも書かれていました。図書館の方も

日々本当に努力をなされているというのはよくわかるんです。私も読み聞かせのボランティアをやっているものだから一番感じているのが、コロナ禍で読み聞かせのボランティアの活動が全くできなくなってしまった。その時にお話を読んでもらえなかった子どもたちが今何年生になっているのかなというところを考えたりすると、少しその辺の影響もあるのかなと感じています。小さい時にお話を聞く、絵本の楽しさを知るという経験をしていくことで、大きくなってから受験勉強があって本に触れる時間が少なくなったとしても、それが過ぎた後に楽しかったということがインプットされているとそこへまた戻ってくるのではないかと感じています。ですので、周りの大人がもっと本を読むことを子どもたちに見せる機会が大事かなと感じています。東北大学の研究結果にもはっきりと出ておりました。親が子どもの前で携帯を見るとかDVDを見るとか、そういうことをしている親としていない親とでは子どもにとっても差があるということが出てきていました。大人が読書をする姿を小さいうちから見せるというのも大事なことで、子どもにばかりではなく大人にも読書をしっかりしてもらおうような働きかけというのも大事なかなということを、この読書のアンケートからとても感じました。協力をさせていただきたいと思います。

(森本委員)

地域移行の方のお話で、連携協議会の委員にも入っているのでその部会でも少しお話ししたことがあるのですが、文化系のところがとても弱いなということはある、そんなに急に文化のところが広がるとは思ってはいないのですが、その辺の弱いところを何とか自分自身も含めてしっかり学生さんたちに知っていただきたいなという思いはとてもあります。資料もかなり改定されてわかりやすくなっているのですが、5ページの「指導者の心得6カ条」のところ、これは是非加えていただきたいというかお願いしたいところがあって、2番目の「プレーヤー自身が考えることを尊重します」とあるのですが、運動系の方たちはプレーヤーと言いますが、文化芸術をやる方たちはプレーヤーという言葉あまり使わなくて、もしできたら「生徒」としていただけたら嬉しいとか、6番の「生涯スポーツを楽しめる大人に育みます」というところに文化芸術を是非入れていただきたいということがあります。私もスポーツも文化も芸術も好きなので色々な方にこういう話をさせていただいているのですが、文化のところは飯田の中では地道にやってらっしゃる方はとても多いのですが、なかなか発信力が弱く、学生さんが来てくれれば一緒にできるねという人たちはたくさんあるのですが、短歌だとか絵だとか、手芸や刺繍など趣味の世界から人に教えている方って意外と多いんです。そういう方たちのところに学生さんが入ったら楽しいだろうなと思っていたりするので、そういう発信ができる場を提供することも大事なので、お伝えしていきたいと思っています。スポーツ関係というのは目立つし、オリンピックでかっこよさが引き立ったり、WBCで野球もかっこよくて憧れの対象になるのは目にする、聞くというところが大きいと思うのですが、文化系はそういうところにとっても弱いんですよね。学生の時は学校で芸術鑑賞というのがあって、お芝居を見たり歌や楽器を見て、なんて素敵なんだろうって心が動かされて、そういう見る体験・感動する体験があったのですが、今そういうところの補助がないのか、目に触れる機会がなかったら子どもたちもやろうと思わないでしょうし、せっかく持っている力が発揮できないのかなと思ったりします。美博や色々な美術館・博物館で展示しているのを、学校の時間に見に行ってもらおうとか、そういうところに触れるだけでも選択肢が中学生に出たりするのかなと感じています。あともう一つ、図書館の読書の話で、私は保育士で未満児さんを見ているのですが、読書をなるべく意識して、子どもたちは基本的には本が好きです。なので1日に何回かは読み聞かせ

したり一緒に読んだりする時間を取っているのですが、どこでもこうやってやっているのかなど心配になって。そういう時間を大事にしているということ、小さいうちから繋げていったらいいのかなど感じていました。小学校・中学校のデータですが、保育園大事だなと考えておりました。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

関連してですが、文化会館では小学校の児童・生徒の皆さんが鑑賞の機会を持っていただきたいということで支援をさせていただいておまして、少しずつ取り組む学校の方が増えてきております。大きなお金ではないので、有名な方というよりは地域で頑張っている芸術家の皆さん、太鼓の方や演劇の方を学校ごとに呼んでいただいて、場合によってはいくつかの学校で共同でというようなこともありますので、そういったことも含めて引き続き支援をしてまいりたいと思います。

(竹内委員)

クラブ活動の移行という中で、「展開」という言葉が出てきているわけですが、実際には9ページのところにありますように「飯田地域クラブ連携ネットワーク」に向けて進んでいくのだろうという方向性が見えるのですが、その過程の中では事務局は飯田市教育委員会、そして連携協議会が舵取りをしながら、その途中に市校長会と連携をとって種目別代表者や指導している方たちも関わるような形で当面展開を取られるという風に理解してよろしいのでしょうか。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

はい、その通りです。

(竹内委員)

そうしますと、学校の部活を担ってきた人たちが、学校の負担を軽減させるという形でクラブの方向へ進もうという中で、部活動に堪能な方たちは特別な扱いを受けて、学校の中での仕事関係を軽くしながらそちらの方に傾注できるのか、そういう形を考えているのか、教えていただければ。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

まず現状でございますが、中学の顧問の先生が直接指導しているケースがあるのですが、そういったケースの場合は顧問の先生は関わりなくなります。当然部活動がなくなりますので、関わりなくなる状況になります。それから、市内に今19名いらっしゃいますが、部活動指導員という民間の方々を謝礼をお支払いする形でお願いしてきていただいています。そういった方々が今顧問の先生と一緒に指導するという状態を構築して、その外部指導者の皆さんがこの「地域展開」をして、新たにできる「公認地域クラブ」の指導者になっていただいて、そちらの方で運営や指導を行っていただく形になってきているケースも多く出てきています。また、地域で普通に仕事をされている方々が「公認地域クラブ」を立ち上げて、運営や指導も全て行っているケースがパターンとしてありまして、そこに携わっていただいている皆様には、最終的にはこのネットワークに入ってもらって、情報共有をはじめとして、「公認地域クラブ」の活動自体がどういう姿を目指していったらいいのかということをお話し合いしていただき、より高めていくことができればよいなと思っております。

(竹内委員)

それを2年の間で、令和8年度までには土日が地域のほうに、令和9年度は平日も学校の先生たちが部活動として関わらなくてもいいような状況にしていくということになりますか。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

その通りでございまして、特に平日の移行を令和9年度末までと予定しておりますが、実質的には3年生が引退するのが夏の大会ということになりますので、そこが一つの移行の目標時期ということになってまいります。それに合わせてこのネットワークの状態を最終形の形に持っていくことができればいいと思っております。

(竹内委員)

一見、学校の先生が実際の部活動だけでなく授業の方に集中していけるのではないかとも言えるわけですが、例えば自分で土日を通して指導をしたいという先生がいたとすれば、それは一般の地域の活動と同じように関わることができるという面も持つわけですね。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

その通りでございまして、一部の種目についてはやはり「公認地域クラブ」がなかなか立ち上がらない、指導者がいないという状況の種目もございまして、そういったところは現在顧問として頑張っている先生と私どものコーディネーターがお話させていただき中で、「公認地域クラブ」の立ち上げを頑張ってもらえませんかという話もさせていただき中で、熱量のある先生については「公認地域クラブ」の指導者として、いわゆる兼業でやっていただくことも選択肢の一つとして提案させていただいているという状況でございます。

(竹内委員)

その先生は自ら自分をブラック化しても本人はそれで良いと思えば成り立つということも考えられるわけですが、その点は明確になってきたので一定の理解が進んだのですが、もう一つ、先ほど文化系が弱いという話を伺ったのですが、飯田市のホームページを開いてみますと、スポーツ系は確かにたくさん「公認地域クラブ」ができていますようですが、文化関係の方は確か一つ、パソコンのクラブが公認されているというだけで、まだまだその広がりが現実につながっていないなところが問題点になるかなと思います。そういう点では、公認地域クラブ認定要綱というようなものや計画をいかに周知して早く認定の組織になれるように働きかけるということが大事になってくるのではないかなと思います。私の所属している「黒田人形保存会」は4月4日、5日に奉納公演があり高陵中学校の生徒さんが参加される形となります。土日ですので令和8年度に入れば学校から切り離される。もし何か起こった時はそれに対して補償なども地域の方がしなければいけないような状況に追い込まれるかと思えます。あと何週間かでその公認が得られるのかどうか。いかにして公認を増やしていくのか、飯田市の働きかけがもう少し強く出ただけであればありがたいなと思っております。あとは1点、指導者の量と質の確保とありますけれども、認定制度を通れば、その指導の向上を図るための対応する仕組みがきちんと整っていなければ、注意だとか警告だとか、時には公認廃止みたいなことも考えられるのかなと思いますが、そういう方向まで考えておられるのか教えていただきたいで

す。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

まず文化系の「公認地域クラブ」のお話ですが、現時点においてはパソコンのクラブが山本の公民館を活動拠点として立ち上がっているところでございます。現時点で文化芸術系クラブは1団体のみなのですが、令和8年10月から吹奏楽部の「地域展開」を予定しております。吹奏楽については休日も平日も同時に、西中と緑ヶ丘中と杵原学校の3ヶ所で活動を開始することが決まっております。指導者の方も20名の方が協力していただけるということで、今の予定でいけば10月から順調に活動を開始できるという予定で進めさせていただいております。全国的には吹奏楽の「地域展開」は課題が多くてなかなか進まないという状況なのですが、当市においては色々な方々のご協力があり、全国に先駆けて進めることができている状況でございます。合唱については、外部指導者の皆さんが指導者としてやっていただけるという方向性が少し出てまいりましたので、そこがどんな形だと組織化していけるのかということがポイントになるかと思っております。いずれにしても平日の移行まで含めると活動拠点までの移動の問題というのが非常に大きな課題となってきておりますので、現在その部分について私どもも鋭意検討を進めさせていただいているところでございます。

続いて2点目として、指導者の質の問題でございますが、基本的には私どもの認定要件を満たした方が必ず各「公認地域クラブ」に1人はいるという状況を作っていただきたいということで、3年間の猶予期間がございますので、この3年間の間に一定の研修を受けた方を育成していただくことを目標としております。現時点で何かあってはならない行為があった時の処罰のことまではまだ現段階では定めておりませんが、皆様からのご意見をお聞きする中で、そういったところまで必要だという意見が強いようであれば考えてまいりたいと思っております。

(後藤座長)

学校部活動というのはなくなるのですか？今後の話ですが、そこを移行から「展開」になったというところに私は非常にこだわっているのですが、学校から要するに地域へ、そういうことでしょうか。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

はい、計画にもあります通り令和9年度末には終了ということになります。学校に部活動がなくなるということです。

(後藤座長)

わかりました。いいと思います。部活動がなくなるということですね。やりたい先生は地域へ出てね。ありがとうございました。

(小西委員)

資料の7ページに「展開」のロードマップという資料があるのですが、最初に学校の部活が地域へ移行すると言った時には、本当に受け皿になるところがあるのか、誰が受け皿になるのかというところがあったと思いますが、今までの説明の中にあるようにそういう受け皿ができて、文化系もできてきたということなので、是非このロードマップを広く情報発信していただきたいと思っております。当事者は

もちろんですが、周りの地域の皆さんに、学校の部活が地域の中でこれからは「展開」されていくというところを情報発信をしていただきたいと思います。

それからもう一つ、図書館の利用についてですが、資料の9ページに、図書館を利用している児童生徒はおおよそ7割で変動がないというコメントがあります。あと3割の方たちが利用していないという数字になっているのですが、様々な工夫をされて図書館の利用について取り組みをされておられることは承知しておりますけれども、この昨年と変わらない3割利用していない児童生徒をどう利用する方向に向けていくのかというところを是非またご検討いただければと思います。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

ご意見ありがとうございました。それでは協議事項に入ります。ここからは後藤座長の方で進行をお願いいたします。

4 協議事項

(後藤座長)

それでは協議事項に早速入りたいと思います。

(1) 社会教育関係各課・館・所の令和8年度の実施について

(秦野教育次長)

それではよろしくお願いいたします。「みらい創造教育推進事業」でございます。この事業は昨年度まで「小中学校キャリア教育推進事業」と呼ばれていたものを名称を改めたものでございます。キャリア教育という部分がどうしても職業教育という一面が強くなってしまっていることもあり、地域の未来を創造していくこともたちを育てたいということで「みらい創造教育」という名前に変更させていただき進めていくものでございます。職場体験ですとか福祉体験の学習の支援、「結いジュニアリーダー」の育成事業、飯田東中学校のりんご並木における学習支援や、三遠南信地域の中学生交流ということで実施をしていくものでございます。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

「社会教育推進事業」でございます。人口減少や多様化社会に対応した学習機会の提供や、市民自治意識の醸成に向けた主体的な学びの環境整備を行っていくものでございまして、令和8年度につきましては「みらい創造教育」の推進や、平和・人権に関する学習会やピースゼミの開催を予定しております。また科学実験教室などの体験活動の充実や、「わが家の結いタイム」といった家庭教育の啓発など、統合的に進めて市民の皆さんの主体的な学びを支援してまいりたいと予定しております。理科実験ミュージアムの運営業務につきましては、令和7年度までは補助金でしたが形態を変えまして委託料とさせていただきます。

続きまして「文化・スポーツ活動の体制整備事業」でございます。学校部活動の地域クラブ活動への「展開」に向けた推進計画に基づきまして行う事業でございます。令和8年度につきましては休日部活動の移行を達成させるために、支援コーディネーターの配置とともに、連携協議会も年3回開催させていただき予定でございます。「公認地域クラブ」への活動支援の補助金につきましては、1クラブについて10万円で50クラブ分、それから遠征費の補助を来年度からスタートさせるということで

その分が600万円、合わせて1,100万円ということで増額をして持続可能な運営体制の構築を目指していく予定であります。また平日移行も見据えまして、適切な情報発信に努めてまいりたいと予定しております。

続きまして「競技スポーツ振興支援事業」でございます。競技人口の減少傾向にある中、生涯にわたって競技スポーツに取り組む人材を増やすために、飯田市スポーツ協会の運営や指導者の育成を支援するものでございます。また全国大会へ出場する地元選手への激励金の交付等を行う事業でございます。

続きまして「市民スポーツ推進事業」でございます。市民の皆さんの運動習慣の定着を目指し、スポーツ推進委員さんと連携したニュースポーツの普及や飯田やまびこマーチ、風越山トレイルマラソン大会を開催する事業でございます。また運動好きのこどもさんを育むために、園児や親子を対象としたコーディネーショントレーニング教室も行ってまいります。

続きまして「2028国民スポーツ大会開催準備事業」でございます。令和10年の10月に長野県で50年ぶりの大会開催ということで行われるものでございまして、その準備を行っていくための費用でございます。飯田市では弓道と高等学校の野球(軟式)の2種目が行われることとなっております。大会の開催に向けまして実行委員会を設立し、準備を進めてまいりたいと予定しております。

続きまして「体育施設等維持管理・整備事業」でございます。社会体育施設の整備を進めていく事業でございます。令和8年度につきましては運動公園のプールのろ過機の更新を引き続き行うほか、丸山小学校などのグラウンドなど5か所の夜間照明のLED化を予定しております。また部活動の「地域展開」に伴います中学校の鍵の改修などを行わせていただく予定としております。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

文化財保護活用課の説明をさせていただきます。「文化財保護事業」についてですが、この事業は市として重要な地域資源を文化財指定し、次代に継承することや、文化財を地域づくりに活用した取り組みの支援、価値や魅力の発信に取り組むものでございます。8年度の主な取り組みですが、指定文化財の所有者や地域主体による文化財保護活用事業等を補助金等で支援したり、文化資産について調査し文化財指定を進めてまいります。また旧飯田測候所などの文化財関連施設の適切な維持管理・活用を図ります。考古博物館では令和9年度にオープンを予定しております恒川遺跡群のガイダンス施設である「ごんが歴史交流館」との役割分担を考慮しまして、現在の展示を更新する準備を進めてまいります。続いて事業ナンバー250「埋蔵文化財調査事業」です。埋蔵文化財の保護措置の対応、発掘調査、記録保存に取り組んでまいります。また得られた調査成果は市民にお知らせしてまいります。続いて事業ナンバー251「飯田古墳群保存活用事業」です。国史跡の追加の指定を目指しまして、今年度調査いたしました竜丘にあります御猿堂古墳の報告書刊行に向けた作業を実施してまいります。また飯田古墳群の出土物について、重要文化財指定に向けた文化庁等との協議を進めてまいります。続いて事業ナンバー252「恒川遺跡群保存活用事業」です。史跡の保存活用の拠点となりますガイダンス施設について、9年度の開館を目指し機材等の整備を進めるとともに、施設の管理運営や案内ガイドの体制が円滑に行われるように地元である座光寺地域と協働しまして人づくりに取り組んでまいります。また正倉院エリアの発掘調査を実施することで、整備に向けた計画について文化庁との協議を進めてまいります。

(小林公民館副館長)

続きまして公民館です。「公民館維持管理事業」につきましては、飯田市公民館及び各地区公民館の維持管理に要する事業費であります。

「乳幼児親子学習交流支援事業」でございますが、各地区において乳幼児とその保護者を対象に乳幼児学級を開催してまいるものでございます。休日に学級を開催するなど、地域参加への入口となる機会として創出をしてみたいと考えております。

続きまして「多様な学習交流支援事業」でございますが、地域コミュニティの基盤となります地域への誇りや愛着の醸成、住民同士のつながりや顔の見える関係づくり、持続可能な地域づくりに向けて、各公民館におきまして様々な学習、交流活動に取り組んでまいるものでございます。

続きまして「高校生等次世代育成事業」であります。将来を担う高校生や若者世代の皆さんに対し、地域づくりの実践者など多様な主体とつながりながら様々な体験、学び、交流を通じまして、主体的に行動できる人材を育むことを目的に実施している事業であります。「ムトスぷらざ」におきましても、誰もが自由に参加できる「ふらっと会議」など対話をする場を創出する中で、創発コーディネーターと連携しながら協働的に学ぶ創発活動を実施してまいる予定であります。

続きまして「飯田コミュニティスクール推進事業」です。飯田学園構想がスタートし、学校、家庭、地域が連携協働し、公民館が学校と地域をつなげる調整役を担い、「みらい創造教育」の実施を支援してまいるものでございます。小学生を対象とした長期休暇の寺子屋事業など、子どもたちが「地育力」を活かして地域に学び交流する事業を実施していく予定です。また「いいだCS協働活動」を支援します。

「公民館改修事業」ですが、施設等総合管理計画に基づき地区公民館の施設を順次改修を進めていくものでございます。次年度につきましては空調関係、またトイレの洋式化、施設の内部改修などを予定しております。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

文化会館及び新文化会館整備室からお願いいたします。「文化会館等管理運営事業」です。令和8年度に関しましては飯田文化会館と人形劇場、鼎文化センターの3つのホールの維持管理に加えまして、飯田文化会館の改修工事費を計上しております。「飯田ひろば」実現のための基本方針に基づきまして、文化活動を止めないよう休館期間を最小限とし計画的な改修を行います。来年度の主な改修は、受変電設備や給排水設備の更新、トイレ、屋上防水等の改修工事になります。続きまして事業ナンバー271「文化会館文化芸術事業」は、舞台芸術の鑑賞機会の提供や市民の文化活動支援、オーケストラと友に音楽祭の開催、飯田文化協会と共同で伊那谷文化芸術祭を開催いたします。小中学生芸術鑑賞事業につきましては、小中学校で独自に実施する舞台芸術鑑賞事業に対して助成してまいります。

続いて「人形劇のまちづくり事業」です。今年のいいだ人形劇フェスタ2025は246劇団が参加し約28,200人が観劇しました。フェスタ2026は猛暑対策を行いながら安全に楽しめるよう支援をいたします。年間を通じて人形劇を楽しめるよう定期公演を実施し、NPO法人いいだ人形劇センターへ負担金を交付いたします。「伝統人形芝居」の振興につきましては、保存伝承への支援と、「今田人」・「黒田」の2つの人形館の指定管理委託に要する経費、伊那谷四座による研修活動への負担金です。教育現場では巡回公演や学校人形劇制作の講師派遣など創造力の育成に取り組みます。

続いて「人形施設管理運営事業」は、竹田扇之助記念国際系操り人形館及び川本喜八郎人形美術館の管理運営に関する事業です。竹田人形館は直営で管理運営し、川本人形美術館は指定管理による管理運営を行います。

続きまして「文化施設整備事業」です。「飯田ひろば」実現のための基本方針に決めました5つの基本方針(集う、観る、創る、伝える、育む)に基づくワークショップを実施いたします。なお4月から新文化会館整備室を文化会館へ統合し、施設整備に関わる業務の係を新設いたします。引き続き施設の整備検討を進めてまいります。

(瀧本副参事中央図書館長)

「図書館管理運営事業」をご覧ください。図書館を安全に安心して使っていただくために施設設備の点検や改修等を行います。令和8年度は上郷図書館の空調設備更新工事などを実施いたします。

「こども読書活動推進事業」でございます。こどもたちが本の楽しさを体験して自発的に読書を行うことができるようになるよう、読書体験の充実に取り組みます。令和8年度の新たな取り組みとして、赤ちゃんや小さなこどもさん連れの方に気軽に図書館をご利用いただくための「こどもタイム」の取り組みを行います。中央図書館、鼎図書館、上郷図書館は日曜日、各地区の分館は土曜日をこどもタイムと位置づけて、親子で気兼ねなくこどもの居場所としてご利用いただけるよう環境作りを進めます。また、「よむリス」などの学年別図書リストの活用も行います。

続きまして「図書購入・提供事業」でございます。図書の貸し出しや情報の提供によって市民の皆さんの読書や学びを支援するものでございます。本に関する興味関心が広がる機会づくりや、司書の調べもの支援の事例紹介、情報の探し方講座などを行います。

続きまして「図書館事業」は、研究団体の皆さんと協働した地域を学ぶ講座の開催や読書会、文学講座や目の不自由な方へ貸し出しを行うための録音図書の製作など、読書を広げる取り組みを行います。

(榎村美術博物館副館長)

「美術博物館管理事業」でございます。来館者が安心して美術館を利用いただけるように管理運営を行ってまいります。来年度は施設等総合管理計画に基づきまして、空調設備と電気設備の改修を実施してまいります。

続いて「美術博物館資料調査研究・収集保管事業」です。地域の自然・人文・美術を対象とした調査研究を連携して継続的に行ってまいります。調査研究の成果は展示や講座、学会発表や研究紀要などで公表いたします。資料整理につきましては、近年寄贈いただきました田中芳男関係資料、長谷川善和コレクションを中心に整理作業、デジタル情報化を進めてまいります。また収蔵場所不足の解消に向けた検討を課題を共有する各課・館・所とともに進めてまいります。

続いて「美術博物館展示公開事業」です。来年度は特に田中芳男没後110周年を記念した特別展を開催します。その他、創立80周年記念南信美術展、古生物学の系譜 鹿間時夫と長谷川善和展などを開催いたします。

続いて「美術博物館教育普及・活動支援事業」です。中央図書館と連携して、第3日曜日の「結の日」を中心に、展示室での会話が楽しめる「こどもタイム」を設置することで、親子連れやこどもが文化・芸術を楽しむ環境づくりを進めてまいります。また、南アルプスジオパーク、菱田春草常設展示や

自然・文化トピック展示などに関連した講座等を実施してまいります。また美術学校、写真賞など子どもたちの創造力を高めるワークショップや総合学習など小中高校と連携した出前授業などを行ってまいります。

続いて「美術博物館プラネタリウム運営事業」です。一般投影、予約投影、特別投影、学習投影を行うとともに、出前授業、観望会などを行い、天文の魅力を伝え宇宙への関心を持つ機会にいたします。

「上村山村文化資源保存伝習施設管理運営事業」です。指定管理者との協働により、まつり伝承館「天伯」及び隣接する山村ふるさと保存館「ねぎや」の管理運営を行います。「遠山の霜月祭」の伝承、後継者育成に地域等と連携して施設を活かすように検討してまいるとともに、次期指定管理者更新に向けて検討してまいります。

「南信濃民芸等関係施設管理運営事業」です。遠山郷の歴史と「遠山の霜月祭」、文化財などの展示により地域の魅力を発信してまいります。また学習講演会やトピック展示などを開催してまいります。指定管理者制度等の施設のあり方について引き続き検討してまいります。

(牧内歴史研究所副所長)

歴史研究所の事務事業をご説明させていただきます。「歴史研究所管理事業」は施設の運営維持管理のための経常経費になります。令和8年度は収蔵場所の確保に向けた文書箱配置用の棚購入と歴史公文書の適切な管理に向けた検討を進めます。

次に歴史研究所が行います調査研究事業、教育事業、市誌編さん事業を包括しました「歴史研究所事業」でございますが、令和8年度の調査研究活動では、歴史的価値を持つ資料を収集保存、調査研究公開に向けた活動を継続するほか、歴史公文書の保存公開に向けた関係部署との協議検討を進めてまいります。調査研究の成果につきましては、年報や書籍の刊行により公表し、主催する地域史研究集会、飯田アカデミアなど市民向けの講座等や、美術博物館でのトピック展示もを行い、地域の歴史について学びの場を提供してまいります。教育普及活動としましては、小中高校生を対象とした出前講座により関心を持つ年齢層を広げることに努め、美術博物館と共催します古文書講座により研究に関わる人材の育成にも取り組んでまいります。また地域の研究団体との連携による共同研究や講師派遣の要望に応えながら住民の主体的な学習を支援してまいります。市誌編さん出版では、年報のほか古文書の報告書を刊行する予定でございます。

(後藤座長)

ありがとうございました。それではどこからでも結構ですので、質問、感想、意見ありましたらお願いいたします。

(三浦副座長)

一つお聞きしたいところが、高校生等次世代育成事業の中に高校における探究学習支援とありました。これは飯田OIDE長姫高校のことだと思うのですが、今高校の方も中学の方も探究の授業ということをすごく言い出して、それぞれ特色ある探究の授業を始めているので、どこの学校にも支援してくれるのかなという捉え方もできます。OIDEの発表を見に行ったことありますが、公民館等もかなり携わってやったりするので、そういうところで補助が出たりしてると思うので、ここの表記は少

し考えた方がいいかなと思いました。

(小林公民館副館長)

今おっしゃっていただいた通りで、飯田OIDE長姫高校の地域人教育をはじめとしまして、現在地域へ高校生が出てきてくださっています。他の学校でもそういった探究の学びの部分で地域という捉えの中で具体的な動きがある場合に、若干でありますけれども一定の学習支援という形で予算計上をさせていただいている部分であります。

(三浦副座長)

ということはOIDE以外にも出しているということでしょうか。なぜ今お聞きしたかということ、ムトス飯田助成事業の方にも高校の方から探究の時間の延長、発展形でということで時々申請が出てきたりするのですよね。それとの兼ね合いとかもあるかなと思います。

(小林公民館副館長)

ムトス飯田助成事業は探究から生まれてまた自分たちで自発的にということで、学校の中とは若干動きが違うもので申請がされていると思います。公民館で所管している予算は、学校の中での活動の中で地域に具体として出てこられた場合に、地域の方に色々をお願いをする中で若干の謝礼等をお支払いできるように予算を計上しておる部分であります。

(小西委員)

公民館の活動については、冒頭の教育長のご挨拶にもあった通り、長野県だけでなく全国的にも注目されている活動ということで、それを裏付けるいろんな事業展開の予算が昨年より増えているところもあるのかなと感じさせていただきました。公民館活動に力を入れていくという市の姿勢が数字に現れているのかなと思って大変喜ばしいことだなと思って拝見させていただきました。高校生・若い世代への関わりも公民館の中で取り組みをされておりますけれども、是非色々な場面で事業の成果を上げていただくことをお願いしておきたいと思います。

(今村光利委員)

毎回私が言うことですが、図書館とか美術館・博物館、歴史研究所等々の社会教育の重要なものは過去から未来への預かり物だという気持ちで関わらせてもらっているのですが、国立の方で入場料を上げるとかグッズを売るとかと言っていますが、この手の社会教育施設のあり方というのは海外の事例を見ても非常に民度に関わる重要な案件かなと。単に集客だけではなくて、歴史観だとか地域の捉え方の根幹に関わるような問題かなと思っております。その点、冒頭の教育長のお話にもありましたが、飯田市の中でも非常に重要なところにお金をかけていただいているのでありがたいなと思っております。それ以上に市民からの協力・理解がないとこういうことができませんので、そういうところの理解がされているということが民度かなと思っております。その上でいつもお願いしているのは、見えるところだけじゃなくて見えないところ、ストックヤードとかバックヤードに非常にお金がかかるのだということも重要なところ。そこで育つ人材、技術者やエドューケーター、キュレーター、アーキビストといった人たちもその中で育っている。非常にそういうところが次の世代に関わってくるの

かなと思っています。そこで一つ、文化会館が改修というところがあります。文化会館も単に舞台として見せる集客の場ではなくて、海外なんか見るとしっかりとしたバックヤード、ストックヤード、ワーキングスペースというのが非常に充実してあります。舞台を作るためのものや、飯田の場合には人形劇やったりする関係の作業するスペース、そこで作られたものをストックしていくというのが非常に重要になってきます。舞台が止まったとしてもそういう作業というのは常に続きます。そういった人目につかないところをいかに市民の人に理解していただいて、お金がかかるけどそれが民度なんだと誇りを持って次世代に伝えられるようにしていただければいいなど常々思っておりますので、感想として言わせていただきました。

(2) 令和8年度社会教育関係団体へ交付を予定する補助金の意見聴取について
(後藤座長)

それでは次に「令和8年度社会教育関係団体へ交付を予定する補助金の意見聴取について」です。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

資料ナンバー4をご覧ください。本件は社会教育法第13条におきまして、地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の意見を聞いて行わなければならないということが定められています。これは補助の目的や補助対象等を明らかにし、補助の目的はあくまで団体による社会教育活動の支援にあり、団体を支配したり事業の内容に干渉したりするものではないということを社会教育委員の皆さんにご確認いただきたいためご審議いただくものとなっております。

(秦野教育次長)

それでは、飯田市PTA連合会運営補助金の説明をさせていただきます。補助の目的につきましては、次世代を担う地域の一員となるこどもの育成活動への補助ということで、交付団体は飯田市PTA連合会でございます。補助金の見込額につきましては100,000円ということで、学校教育課が担当させていただきます。

(後藤生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長)

続きまして、飯田市公認地域クラブ活動支援補助金でございます。「公認地域クラブ」への補助金ということで、令和8年度につきましては50団体への交付を予定しているところでございます。補助金の見込額としては500万円を見ております。続きまして、飯田市公認地域クラブの遠征費の補助金でございます。中体連や所定のコンクール等へ参加をするクラブに対して交通費等の支援をさせていただく予定としております。600万円を予定しております。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

続きまして、文化財保護事業補助金でございます。重要無形民俗文化財であります「遠山の霜月祭」の後継者育成のための補助金でございます。交付団体は上村遠山霜月祭保存会と遠山霜月祭保存会でございます。補助の見込額は各28万円となっております。

(牧内歴史研究所副所長)

続きまして、歴史研究活動費助成金でございます。歴史研究所の研究活動の基盤を拡充するために団体等の研究活動を助成するものでございます。対象は団体と個人と両方ございまして、飯田・下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史研究の成果であること、新たに得た史料を研究所に提供することなどの条件を記載しております。今年度から補助率が2分の1になっておりまして、5万円の2件ということで10万円を予算化してございます。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

続いて文化会館から説明させていただきます。飯田市伝統人形芝居振興事業補助金につきまして、指定文化財の伝承者の養成及び公開のために必要な事業に対する補助金でございます。交付団体は「今田人形座」、「黒田人形保存会」でございます。補助金見込額はそれぞれ53万2千円でございます。もう1点、市民舞台芸術創造支援事業補助金でございます。市民の皆さんの舞台芸術を中心といたしました活動に対しまして、技術の向上と創造事業の支援を行っておるものでございます。補助金の見込額は97万円でございます。

(榎村美術博物館副館長)

続きまして美術博物館からですが、伊那谷の自然と文化研究費補助金でございます。伊那谷の自然及び文化に関する調査研究を奨励し、個人または団体が行う研究事業に対して補助金を交付するものでございます。補助金の額は40万円でございます。令和7年度の交付団体の実績は、伊那谷自然友の会、柳田國男記念伊那民俗学研究所、伊那谷研究団体協議会でございました。

(後藤座長)

ありがとうございました。皆様方、感想意見ありましたらお願いいたします。

(小西委員)

それぞれの団体に目的に沿って補助をするということで承知しておりますが、行政の全体の中ではよく補助金の見直しとかいうことが盛んに言われると思いますが、今回のこの予算等については見直しがされたのかどうか、少しお話しいただければと思います。

(秦野教育次長)

全ての補助金について見直しをするというのは市の方針として行っております。その中で私どもとして見直しをした結果として、この見込額を予算として計上させていただいてあるという形になっていきます。ただ今後も補助金に関しては見直しを続けていくという方針としてございますので、先ほども今村委員がおっしゃられておりましたが、民度をどういう風に高めていくかということも大事なところだと感じております。若い人たちをどう発掘していくかということも各団体課題になっていると思いますので、単に補助金を交付していくというだけでなく、団体の皆さんともどう活動を盛り上げていくかということも併せて検討していかないと、財政という部分からするとどんどん見直しの対象になっていってしまうということはあると思います。

(小西委員)

現場の皆さんが頑張って財政当局と話を詰めていただいて予算確保していただけたという風に理解させていただきます。行政側とすると補助金というのは見直しをしましょうというのが全般的に言われることだと思いますので、今後も是非それぞれの活動を支援していただく意味でも予算の確保、必要に応じて増やすということも是非お取り組みをいただければと思います。

(後藤座長)

ありがとうございました。(1)と(2)が終わりました。

(3) その他

その他何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは協議事項終わりましたので、進行を事務局へお返しします。

5 教育委員会各課・館・所からの連絡・報告事項

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

「掘るしん2026in飯田」というチラシをご覧ください。現在、県と共同でリニア事業に先立つ調査を進めておるところでございます。その速報展として開催しております。期間は3月17日から5月10日まで、会場は考古博物館のエントランスでございます。速報展のみの方は入場無料でございます。3月20日には担当者によるギャラリートークも開催いたします。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

文化会館から2点お願いいたします。まず文化会館ニュースレター13号でございます。新しい文化会館の取り組み状況を市民の皆さんにお伝えするニュースレターになっております。「飯田ひろば」を実現したいということで機能を分散整備したいということ、文化活動を止めないためにはまず現文化会館の改修に着手したいということ、限られた財源を効果的に活用するために複合化を基本に施設整備を行いたいということなど、整備方針の考え方も含めてまとめてございます。続きまして、「オーケストラと友に音楽祭2026」のご案内でございます。5月の3日から6日までの4日間ということでございます。チケットの方が窓口では昨日から販売しておりまして、朝から大勢の方が購入に来ていただいております。今回の見どころは名曲コンサートでございまして、指揮者の川瀬健太郎さんが推薦をいただいた地元の旭ヶ丘中学校の熊谷謙志さんがソロでデビューをしていただくということで、ぜひ5月6日を楽しみにしていただければと思います。中高生の皆さんのクリニックも非常に充実しております。

(榎村美術博物館副館長)

3月・4月の美博ニュースでございます。自然トピック展示「私のコウブツ」、文化トピック展示「大型屋台獅子の誕生と広がり」を展示しております。プラネタリウムの方では3月20日にプラネタリウム祭りを開催いたします。2つの番組を無料で投影し、午後にはわくわく月世界ツアーということで星空解説のお話をさせていただきます。月探査の時に使われましたソラキューの実演もさせていただきます。また美術講演会ということで当館の蜂谷光志館長が「私の制作作品とアートの思考」ということでお

話をいたします。4月には「ゼロから始める古文書講座」「こども美術学校」「中学生造形教室」の募集が始まります。また「美博学芸祭2026」ということで、美術博物館の学芸員や市民研究者の方々の研究成果の発表会としてポスター発表等を行います。

6 新年度の日程(予定)

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

社会教育委員の皆様には、令和7年度、令和8年度と2年の任期で役をお願いしておるわけでございます。令和8年度のスケジュールが示されてまいりましたので、ここに掲載をさせていただいております。なお、4月早々、15日でございますけれども、18時30分より社会教育委員会第1回臨時会を開催したいと考えております。社会教育委員の皆様には、他の審議会等へ兼職で出ていただいている部分についてご協議いただくということが主な臨時会の内容となろうかと思っております。他のスケジュールはご覧いただければというふうに思います。

7 その他

(三浦委員)

おもしろ科学工房でどんなことをしているかということで、運営実績をまとめましたので少し報告したいと思います。令和7年度ですが、理科実験ミュージアムが約6,000人、出前工房が39回で2,000人。科学実験教室ですが今年は31回ということで、小学校10校などで行っております。5年生に液体窒素の実験、6年生がモデルロケットの打ち上げを行っているのですが、今年上郷小学校が新たに入りました。そして今年初めて千代小と千栄小が合同でロケット打ち上げと科学実験教室を行いました。来年度からは竜東学園で合同ということになります。竜丘の自治会長さんたちが見学に来ていただきまして、竜丘もやりたいが松尾小学校と合同で良いだろうかという相談があり、来年度は緑ヶ丘学園全部で科学実験教室ができるということになります。

また、理科実験ミュージアムの方でロボコンの作り方をやって全国大会で2番になってきたということもこのことですが、NHKの後援である小学生ロボコン大会というものを長野高専の方から情報をいただいて始めたところ、全国で2位だったのです。その時にお母様が「こういう企画さえ知らなかったし、どうやって応募していいかわからない。だからこういう情報提供をしてくれることが嬉しい」と言われたのです。日本中で起こっている情報を与えて広めるということもすごく大事なことだなと。アンテナを高くして色々な情報を子どもたちに与え、親もそれを受け取ってもらうということが大事かなと思いました。また、中学生になると部活がなくなるとお母さんたちが心配していて、スポーツはいいけれど文化系はないからどうしようかという話があったので、県の方の依頼で行った時に南信の地区というのは理科クラブがないのです。ロボコンなり科学実験なりで子どもたちが育っている中で、中学校としての受け皿がないというのも悲しいなと思ひまして、発明クラブを母体におもしろ科学工房も協力して理科クラブみたいなものを開こうかという話を今しております。そういった時に、公のところで文化系の広報、何々クラブがあるよとか、情報を提供してほしいということもすごく思いました。好きな子どもたちが運動して、好きな子どもたちが文化系に行つてという選択があるので、それを選択する時の情報を子どもたちが受けられるように教育委員会として出してほしいなと思いました。

8 閉会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

以上をもちまして、第2回定例会を終了とさせていただきます。